

Hab. Gregarious on sandy ground in pine woods, Ishiyama-dera, Ōtsu, Oct. 16, 1956 (-type). Distr. Endemic (Shiga).

This small *Inocybe* is very remarkable for the two-spored basidia which are extremely rare in the genus (e. g. *I. hirtella* Bres.).

本報告においては日本産欄菌類 8 種を載録した。

78) **スジオチバタケ** (新種)。傘は象牙色の地に紫色の放射状条線を有し、茎は橙黄褐色で下半部に短毛を被る(基部は密に長毛におおわれる)。胞子はきわめて長大。大津市及び奈良市内の林内で採る。

79) **ミヤマオチバタケ** (新称)。ヒダの縁部と側面、ならびに傘の表面に褐色厚膜のシスチジアを有する。広島県三段峡附近の林内、トチノキの落葉の間に発生する。

80) **スナワタケ** (新称)。傘は乾性であるが、茎はいちじるしい粘質物におおわれ。あたかもジュンサイのようである。京都市、奈良市及び大津市内で採った。

81) **センボンクスギタケ** (新称)。冬から春にかけて朽木上に発生し。ときには雪の中でも見かけることがある。大津市三井寺及び同市石山平津町で採った。

82) **クロコタマゴテングタケ** (新品種)。コタマゴテングタケ *Amanita citrina* S. F. Gray の黒味をおびた一品種。大津市石山千町のアカマツ林で採る。

83) **イロガワリヘビキノコ** (新種)。外観はヘビキノコ *Amanita spissa* (Fr.) Quél. やヘビキノコモドキ *A. spissacea* Imai に類似しているが、肉が黄変する点で容易に区別される。大津市日吉神社境内で採った。

84) **ヤケノヒトヨタケ** (新称)。小形で焼跡に発生し、胞子が特異な形態を呈する。大津市石山平津町で採集。

85) **フタツミアセタケ** (新種)。小形。担子柄は 2 胞子をつける点がいちじるしい特徴である。大津市石山寺境内マツタケ山で採った。

□ **千葉県植物誌** Biological flora of Chiba Prefecture 千葉大学内、千葉県生物学会発行 pp. 525 (索引 33 共) (1958 年 6 月) 頒価 ¥1,000 沼田さんを中心とする千葉県生物学会の戦後 10 年の努力の結晶である。由来県単位の植物誌はいくつもあるがこれは他に見ない特色がある。それは千葉県自身が自然地塊をなしているので行政単位で纏めたにもかかわらず自然的なフロラになり、また日本の東南角にあたる分布上の特殊位置からみての重要性、これを纏める迄に何回も予備的な締めくくりをやりながら一応の最終段階へ持ち込んだプロセス、単なるリストだけでなく特に生態部面を目標にした記述が用意されていること、渡辺清彦教授が描かれた簡にして要をえた特産植物などの写真図 198 個を入れて牧野図鑑との連繋をはかり、使用者の便宜が優先したことなどはこのフロラの特徴であろう。新しい、そして好ましい地方植物誌のサンプルとして記録しておきたい。(前川文夫)